

# NICE SMILE

2015  
新春  
VOL.60

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター ● 院外・院内広報

発行・責任者：広報誌編集委員会委員長 森朝 紀文 / 〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23 TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929  
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/

妙法蓮華經之一部  
不覺山 日恭謹書

## 福聚海無量

泉佐野地球交流協会(ica)理事長  
佐藤 憲成(妙光寺住職)氏書

ふくじゆかいむりよう  
福聚海無量

観音さまの慈悲の大きき深きことを広大無辺の大海に譬えた、法華經の言葉



年頭挨拶

### もうすぐ研修棟が完成します

理事長 八木原 俊克

新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年の我が国における医療関連ニュースとしては、幻のSTAP細胞、70年ぶりの Dengue 熱国内感染、エボラ出血熱の疑い患者入国と、インパクトのあるニュースが相次ぎましたが、明るいニュースとしては世界初の iPS 細胞を使った再生医療の成功 くらいでしょうか。

特定感染症指定医療機関である当院では、エボラ流行地のギニアから発熱を伴う疑い患者が11月に感染症センターに入院した折、発足して1年余りの総合内科・感染症内科の医師達を中心となり、感染症認定看護師、検査技師などの多職種チームが厚労省の指示に沿って献身的に迅速、かつ適切な対応をとることができました。患者さんは幸い陰性で、この一連の経験はチームにとっては結果的に貴重なシミュレーションとなり、病院にとっても昨年の大きなニュースの一つになっています。

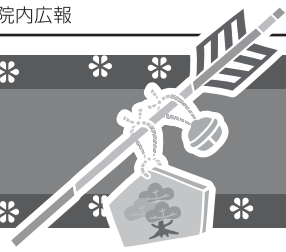
一方、多くの医療機関にとっては現実的にインパクトがあったのは診療報酬改定と消費増税だったと思います。もともと、2014年の世相を表す漢字が「税」であったことは、消費税については一般社会の中でも最もインパクトのあった事柄だったようです。

さて、視点を2015年に向けますと、大きな明るいニュースが間近に控えています。現在、病院駐車場に建築中の「りんくう教育研修棟」の完成です。この建物の2階には研修医などの若手医師をはじめとする医療人の研修施設「泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター(サザンウィズ)」が開設されています。また、大小幾つかの会議室が3階に移設・増設され、院内の会議のみならず、地域の医療関連の研修や各種会議にも広く利用していただくことにより、南泉州地域においてこれからの地域医療を担う人材育成と地域連携を促進させるためのコミュニケーションセンターとして、大きなツールになるものと考えています。そして、2015年は昨年4月から稼働し始めています泉州南部診療情報ネットワーク「なすびんネット」と共に、地域完結型医療の構築と実践に向けて、皆様方と一緒に歩み出す年になればと考えています。

今後とも益々、皆様方のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

### CONTENTS

「年頭挨拶」 理事長 八木原 俊克	1	「なすびんネットのご紹介」	12
「年頭挨拶」 副病院長・事務局長	2~3	「クリスマスコンサート Vol16」	
「年頭挨拶」 各部門長	4~11	「かわいなお便りをいただきました」	
		「編集後記」「人権標語」	



# 2015年を迎えて



副病院長 兼  
地域医療サービスセンター長 兼  
心臓センター長

永井 義幸

新年あけましておめでとうござ  
います。2015年を迎えました。  
昨年未から、エボラ出血熱に対  
して国の重要拠点があるりんく  
う総合医療センターが、開設以来  
はじめてといていくくらい各  
方面とくにマスメディアにとり  
あげられました。倭感染症センタ  
ー長をはじめ感染症内科の医師、山  
内・大野・甲斐副看護局長を中心  
とした看護局のみならず、それ以  
外にも数多くの職員に取り組ん  
でいただいております。感謝いた  
します。

の必要性も高く15年以上かけ  
てここまで職員一同で関係方面  
と育てあげてきたもので現在は  
病院の宝になってきました。今あ  
げました3つの部署以外にも多  
くの部署で職員が英知をしぼっ  
て多職種で協同して新しいもの  
を築きあげていただいているこ  
とに深謝いたします。より職員の  
満足度の高い、また利用される市  
民・患者や地域の医療関係の方々  
に信頼される病院をめざし継続  
して取り組んでまいりますので  
引き続き御協力をお願いいたし  
ます。



# 泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター (サザンウイズ)の開設にあたって



副病院長 兼  
大阪府泉州救命救急センター所長 兼  
サザンウイズセンター長

松岡 哲也

皆様方には平素より、りんくう  
総合医療センターの運営に、多大  
なご尽力を賜り厚く御礼申し上  
げます。新たな年を迎え、一言ご  
挨拶申し上げます。

日々目まぐるしく過ぎ行き、り  
んくう総合医療センターと大阪  
府立泉州救命救急センターが統  
合して今春で2年になります。そ  
の間、我々は地域住民の安心の拠  
り所として、皆様に信頼される病  
院を目指してきました。まだまだ  
不十分ではありますが、職員一同  
ますます精励していく所存です。

さて、皆様もご存知の通り、泉  
州南部地域の医療資源は十分と  
は言えず、特に人材確保は喫緊の  
課題です。その解決には、医師を  
始めとする医療専門職にとって  
魅力的な環境の整備が必要です。  
特に若手の方々には、そこで学び自  
分の能力を高めることのできる  
地域に魅力を感じます。りんくう  
総合医療センターでは、病院の隣  
に昨年より教育研修棟を建設し  
てきました。漸く完成し、今年の  
2月1日に記念式典を開催する  
予定です。その2階部分は、泉州

南部卒後臨床シミュレーション  
センター(通称、サザンウイズ)と  
して、泉州南部地域における若手  
医療専門職の学びの場として運  
営する予定です。そこには、泉州  
南部地域医療再生基金を活用し  
て購入したシミュレーション機  
器を配備し、医師のみならず多職  
種が集い学べる教育研修の場を  
目指します。3階部分は、会議室  
スペースとして、最大で315人  
を収容できる大会議室を備えて  
おります。

2025年問題に向けて、地域  
包括ケア体制の整備が提唱されて  
いる状況において、個別の医療機  
関だけでなく地域網羅的な多職種  
連携の強化が重要です。そのために  
泉州南部地域で働く医療専門職の  
教育研修の場としてサザンウイズ  
を運営したいと思っております。  
また、泉州南部地域における  
Interprofessional Education:  
Specialized Education (IPE:  
Specialized Education)の場としても活  
用し、病々・病診連携、および多職  
種連携の強化に資することを切  
に望みます。

# 2015年

多くの皆様へありがとうございます



副病院長 兼 看護局長 増田 紀子

新年、明けましておめでとうございませう。

わたくし事ですが、今年度3月一杯で定年退職を迎えます。平成11年に縁あり就職させて頂き、早15年が過ぎました。私が看護局長に任命された平成20年は、当センターの変革期である一方、

7：1看護基準の新設により、看護師確保の水河期でもありました。

泉州広域母子医療センター開設、地方独立行政法人化、救命救急センターとの統合等、次々に変革される事業に重責を感じながらの6年間でしたが、過ぎて見ればつかの間の出来事で、その中で十分な達成感を得ることも出来ました。看護局は、総勢500人（看護師・看護助手・クラーク）を越える看護職員を抱え、センターの向かう方向に足並みを揃える事は並大抵ではありませんでした。しかし、副看護局長、看護師長、スタッフの支えにより、私はここに

とが出来ました。また、多くの医療従事者・事務の方々にも支えて頂きました。この紙面をお借りしお礼申し上げます。後、3ヶ月弱ですが、しっかりと足を地につけて勤めて参りますので変わらぬご支援よろしくお願い致します。

2025年問題に向け、病床機能報告制度が動き出しました。これからますます医療界の変化を察知し、その変化に適応できる組織への変革が求められてきます。変革はまだ続ききます。今後におきましても、チームの中で働く力を一人一人が身につけ、より良いセンターを作り上げていかれますことを期待いたしております。多くの皆様、本当にありがとうございました。



千支を迎えて



事務局長 細谷 進

新年明けましておめでとうございませう。

皆様におかれましては、良い年をお迎えになられたでしょうか。新年を迎える度に思うことですが、年を重ねるたびに1年が早くなり、社会の動きもスピードを増すように感じます。それに伴い価値観も少しずつ変わり、医療においても様々な変革が求められます。

具体的な例として、私が勤め始めた約36年前には、医療にサービストという概念はなかったように思います。もちろん安全・安心な医療や患者満足という言葉もありませんでした。今では当たり前に使われる言葉で、病院や患者さんにとっては常識ともいえます。このような変化は年々スピードを増しますが、その変化に対応し、更にはその先を行かなければ、やがて淘汰されることとなります。そのためにはしっかりと土台（基礎）が必要です。それが、基

本理念であり、組織だと思っています。話は変わりますが、今年が未年です。私は今年で5回目の年男、つまり60歳になります。振り返れば、よく60年も生きてきたなあと思えますが、では、これまで何をしてきたのか、何かを成し遂げたのかと言われると、ただ、普通のことを普通にただだけのよう

に思います。今年には組織作りが私の課題だと感じています。過ぎ去ったときに、普通のことを普通にしたいと思えるようになっていきたいと思います。未年の「未」は未熟者の「未」。昨年4月より、りんくう総合医療センターで勤務させて頂いた、早くも9ヶ月が過ぎました。まだまだ未熟者ですがこれからも頑張りますので、今年もよろしくお願ひします。



# 年頭所感



総合内科・感染症内科部長 兼  
感染症センター長 兼  
院内感染対策室長 兼 産業医

倭 正也

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祝い申し上げます。日頃より当診療科に対しまして、多大なる御協力ならびに御支援を賜りまして誠にありがとうございます。この場をお借りして深く御礼申し上げます。本年におきまして、泉州医療圏の総合診療、感染症診療ならびに内科救急疾患にさらなる貢献をさせていただく所存でございます。今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお祝い申し上げます。

膠原病内科部長 兼  
リウマチセンター長

入交 重雄

新春のお慶びを申し上げます。昨年は地域医療に関する方々、院内各部門の方々からのご協力を頂き大変お世話になりました。御礼申し上げます。微力ながら今年も南泉州地域の膠原病・総合内科等の医療に貢献できるよう努めます。本年も宜しくお祝い申し上げます。



血液浄化センター長 兼  
腎臓内科部長

坂口 俊文

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祝い申し上げます。腎臓内科は昨年4月から医師がこれまでの坂口、小林、矢野の3名に松下が加わり、4名体制となりました。まだまだ至らないところはありますが、診療体制はかなり充実してきたと考えております。

また昨年からの近隣の透析施設間で災害時に助け合うためのネットワーク作りを始めました。近隣の全ての透析施設のご協力をいただき、この計画は順調に進んでおります。今後ともよろしくお祝い申し上げます。



血液内科科長 兼  
輸血部長

福島 健太郎

皆様あけましておめでとうございます。2014年4月より新しく2名スタッフが着任し、白血病・悪性リンパ腫をはじめとする血液悪性疾患の治療を精力的に行っております。また当院で治療を目指す医療が提供できるよう、再び移植治療が可能な施設を目指して『移植治療再開計画』として準備を整え、11月には自己末梢血幹細胞移植を再開できました。今後とも努力精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお祝い申し上げます。



肺腫瘍内科部長

森山 あづさ

新春のお慶びを申し上げます。旧年中は地域の先生方および院内から多くの御紹介を頂き誠にありがとうございます。肺腫瘍の治療も新薬がでるたびに複雑化、副作用への対応をさらに慎重に行う必要性が出てきています。御高齢の患者さんが多い中、患者さんに納得して少しでも安心して検査・治療を受けて頂けるように邁進していきたいと考えます。

今年も何卒宜しくお祝い申し上げます。



神経内科医長

宗田 高徳

医療崩壊が叫ばれるようになって久しくなりますが、改善の見通しはいまだに立っていない状況です。この南泉州地域も例外ではなく、特に内科系医師の不足は数年来からの懸念事項となっております。神経内科におきまして、りんくう総合医療センターで1名の人員での診療を余儀なくされています。少ない人員であっても診療の質を落とすことなく、良質な医療を提供できるように努力してまいります。微力ながら南泉州の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお祝い申し上げます。



循環器内科部長

武田 吉弘

明けまして、おめでとうございます。旧年中は、救命センター、りんくうの当直の先生方の御協力のおかげで、緊急カテーテル治療数が大幅に増加しました。本年も宜しく御願い申し上げます。



がん治療センター長 兼  
外科主任部長 兼  
医療安全管理室副室長

佐藤 俊一

新年あけましておめでとうございます。旧年中は各診療科先生方、薬剤師、看護師、検査技師、地域連携室、診療情報管理室、相談支援センターやメディカルクラークをはじめ様々な部門の皆様にご協力いただき、心より感謝いたします。厳しい中にも楽しさを共有できる、スパープロチームを目指し、柔軟かつ大胆な発想を展開することにより医学の進歩や社会に貢献できるよう日々邁進してまいります。皆様の御多幸と御健勝を祈念いたします。本年もご指導、ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお祝い申し上げます。





外科部長

飯 千 泰 彦

小児ヘルニアは日帰り手術を行っており、私自身2000例を越えました。臍ヘルニアは早く、形の良いお臍になるよう固定法を開始し、40例になります。尿管遺残の治療法は日本小児外科学会雑誌にも取り上げられ、基本的に手術を用いませぬ。虫垂炎は腹腔鏡手術を行っており、膿瘍形成性虫垂炎に対しては保存的治療を優先し、当院の判断基準も同学会誌に掲載されました。最先端の医療を実践し、患児に負担の少ない、安全な治療を心がけ、早期の回復を目指しています。



救急診療部長 兼 脳神経センター長 兼 脳神経外科部長

森 内 秀 祐

最新の専門医療を提供する 脳神経センター(脳神経外科)

謹賀新年。脳神経センター医師は、脳神経外科5人、神経内科1人の6人で、2014年の手術件数は400件を越え、開設以来最多です。脳卒中救急受入窓口が救命センターに一元化し、スムーズな受入が可能です。また、脳腫瘍の最新治療、脳動脈瘤の血管内治療、正常圧水頭症治療など最先端の治療を提供します。当科のモットーは、患者様の身になって考え、この病院にきて良かったと思っただけの治療の提供です。



ICU/CCU部長 兼 心臓血管外科部長 兼 リハビリテーションセンター副センター長

松 江 一

新年、あけましておめでとうございます。当地に赴任させて頂き、早5年が経過致しました。無事診療を継続出来ておりますのも地域の先生方及びご関係各位のご支援のおかげと感謝しております。本年も引き続き、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

当科では心臓血管外科治療全般を行っておりますが、専門外来として「大動脈専門外来」「心雑音・心臓弁膜症外来」を行っております。本年は、加えて「末梢動脈疾患専門外来」を開設する予定です。高齢化に伴い、地域における循環器疾患に対する診療の必要性がますます高まっております。地域の先生方との連携(病診・病病連携)をより深め、患者様にとつて真に質の高い医療を提供できるよう努力する所存です。



整形外科部長 兼 脊椎センター長 兼 リウマチセンター副センター長

金 澤 元 宣

りんくう総合医療センター整形外科は現在、大阪大学整形外科脊椎外科クリニックより1名の脊椎専門医、股関節クリニックより2名の人工関節専門医が赴任し、脊椎センターおよび人工関節センターを開設し、脊椎、関節疾患に対して特化した手術

治療を中心とした診療をおこなっております。人工関節センターでは、膝関節、股関節疾患に対してより専門的な治療を開始しております。特筆すべき点は、先進医療としてナビゲーションシステムによるコンピュータ支援手術を導入し、従来の手術と比較してより正確な人工関節手術が可能となりました。脊椎センターでは、一般的な脊椎、脊髄疾患だけでなく、

脊椎・脊髄損傷や脊椎・脊髄腫瘍などにも対応できるよう心がけております。また、地域医療ネットワークを通じて、手術の必要でない患者様には地域のクリニックや診療所の先生方と連携を密にしていこう心がけております。

また、膠原病内科部長の入交医師と整形外科医師とでリウマチセンターを開設し、リウマチ疾患に対して内科と整形外科が協力して診療を行っていく体制を整えております。今後とも泉州地区の基幹病院としての役割を果たすべく精進していきたいと考えております。



形成外科部長

服 部 亮

昨年一年も、多くの先生方や、看護師、薬剤師、事務職員をはじめとしたコメディカルの方に支えていただきました。誠に御世話になりました。誠にありがとうございました。一昨年から保険適応となった乳房インプラントですが、昨年よりアナトミカル型インプラントについても保険適応



呼吸器センター長 兼 呼吸器外科部長

桂 浩

となったことで、従来の自家組織(DIEP flap等)による乳房再建と合わせ、現実的な再建手術がほぼ保険診療としてできるようになりました。これまで以上に少しでも綺麗な、少しでも目立たない、少しでも芸術的な、こだわりの持った治療を提供できるように日々の診療に取りくんで行く所存です。今年もよろしくお願いいたします。

皆様、明けましておめでとうございます。当院に赴任し、早や4年が過ぎました。

この間、石の上にも3年、昨年は、マンパワー増加かと喜んだのも束の間、昨秋からは、小生1名のみに。結果、肺がんなどの主要手術は、大学から週1回の専門医の応援なくしては不可能な状態です。加えて、症例は、心血管系を含めて多種多様な併存症を有する患者さんも多く、周術期まで考えれば、制限を余儀なくされております。自科での0からの専門医育成といつても、最短でも約7年。これも、昨今の外科志望者の減少など考えれば、夢の如し。当分は、目途のない人事派遣を待つしかないのかと、ため息ばかりです。いつになれば、この年頭のご挨拶で、人事の話題から脱却できるのでしょうか。いずれにしろ、当面は、可能な範囲で、安全に、少しでも満足していただける診療に努めたいと思います。関係各位の皆様、本年も、ご指導、御鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



泉州広域母子医療センター  
新生児医療センター長兼  
小児科部長

住田 裕

泉州南部では、少産少子化、地域の小児科医の減少傾向が持続し、乳幼児健診やワクチン接種など、小児保健分野を維持することが困難な状況になっていきます。幸い、当センター小児科は常勤医の定着、後期研修医の増加と、医師数を維持することが可能となり、2015年4月以降、泉佐野市、泉南市、熊取町、田尻町の2市2町が合同で二次健診を一括して行うことになりました。りんくう総合医療センター、泉佐野泉南医師会、行政が一体となつての、大阪府で初の試みです。地域小児医療の一助となることを願っております。



泉州広域母子医療センター  
産科医療センター長兼  
産婦人科部長

萩田 和香

2008年4月から運用が開始された泉州広域母子医療センターも、皆様のおかげをもちましてオープンから6年経ちました。産科医療センター、新生児医療センター共に大過なく運営する事ができています。また、救命センターの統合により、従来にもまして産婦人科救急にも力を注ぎ、一次救急から三次救急まで約1700件の産婦人科救急患者を受け入れる事が出来ました。また、高度な医療サービスの提供のみならず正

常分娩の妊婦さんにもリラックスして頂けるよう、祝い膳や分娩後のアイスクリーム、妊婦ヨガなども行っています。

お産は合併症なくお母さんも赤ちゃんも退院する事が出来てはじめて「正常分娩」と言えます。「ハイリスク」と最初からわかっているお産はむしろ少ないのです。地域の皆様がいざというときでも安心していただけるような安全性と快適性を尽くした周産期施設として更に研鑽を続けるつもりです。



泌尿器科部長

萩野 恵三

当医療センター泌尿器科は、旧年2014年も泉州地域住民の皆様ならびに先生方に絶大なご支持をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。本年も実質3名の常勤医で(1名の医師は現在育児休暇中)でできる限り地域の皆様のご期待に沿うべく努力してまいります。



眼科部長

林田 素子

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。おかげさまで、他科とも緊密に連携を取りながら多くの患者様の診療

や治療にあたる事ができました。特に白内障術前の経過照会に際しては、主治医の先生方も大変お忙しい中、詳細な経過や投薬内容をご教授いただき大変感謝しております。

機器に関しては昨年春に念願のOCTを導入することができ、網膜疾患や緑内障診療の幅が広がる事が期待されます。今年も何卒よろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科部長

碓田 猛真

新年明けましておめでとうございます。近年の医療分野、特に薬剤分野の発達はめざましいものがあります。耳鼻咽喉科関連では、昨年経口減感作療法が保険適応になり、分子標的治療薬も徐々に増えてきております。当科ではこのような最新治療も取り入れながら診療を行っております。学会活動にも積極的に参加し、時代に遅れないよう努力して行きたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。



口腔外科部長

大前 政利

平成27年の干支は『未(ひつじ)』である。漢和辞典にも『未』の音読み『ひつじ』とある。何故『未』を『ひつじ』と読むのか？元来十二支(子丑：

戌亥)に動物の意味は全くない。十二支は色々なもの(時刻や方位)に割り当てられ、動物(鼠牛・犬猪)を割り当てたものは『十二生肖(または十二属相)』と言う。十二支8番目の『未』に割り当てられた動物が『羊』というわけで『未(ひつじ)』となつたわけです。国によって割り当て動物は微妙に違ってきます。前置きが長くなりましたが、今年も当科ならではの診療手段・治療実績を携えて、日本のみならず世界を駆け巡り『りんくう総合医療センター』と『りんくうの口腔外科』をいろんな手段でプロモーションしてまいります。



中央手術室長兼  
麻酔科部長

小林 俊司

● 増加する高齢者、重症患者の手術

あけましておめでとうございます。社会の高齢化が進み、医療の進歩とも相まって、ここ数年80〜90歳以上の超高齢者や、心不全、肺機能低下といった重症患者の手術・麻酔依頼が急増しています。このような症例の手術・麻酔は、主科と麻酔科だけでなく、他の様々な科や部門の協力なしには不可能です。当院は泉州地域で最大規模の総合医療センターであり、こういった難しい症例にも対応していかねばなりません。手術部・麻酔科共に気合いを入れていきますので、今年も皆様のご協力をよろしくお願い致します。





リハビリテーションセンター長兼  
リハビリテーションクリニック部長  
榎谷昭一

—あけましておめでとうございます。昨年度は休日のリハビリテーションの提供に向けて科内スタッフの研修後の9月より土曜日のリハビリテーションの増員後に休日リハビリテーションの完全実施にむけて取り組んできたかと考えています。4月から「がんのリハビリテーション料」を算定開始し、がんリハ研修参加により、算定可能なスタッフの増加にむけて他職種の方々のご協力宜しくお願い申し上げます。



大阪府泉州救命救急センター所長代行兼  
副所長兼  
重症外傷センター長兼  
医療安全管理室長  
水島清明

新年あけましておめでとうございます。

昨年度、泉州救命救急センターは設立20周年を迎えました。11月8日には、「第3回 りんくう地域医療懇話会」で、20周年記念フォーラム、懇親会を開催し、総勢270名ものご参加をいただきましたことを、御礼申し上げます。また、そのあと引き続き行われました泉州救命センターOB・OG会では、たくさんの方の懐かしい思い出を語り合え、楽しい一日となりました。20年というのは、大きな節目にあたります。フォーラム内



血管内治療部長  
井戸口孝二

でのパネルディスカッションでのテーマでもありましたが、「泉州救命センター」の役割：過去、現在、そして未来へ」を、改めて考えるよい機会となりました。昨年度は、救命ICU18床のフル稼働や、ドクターカーの覚知同時要請など、新たに取組んだことが、患者数の大幅増という大きな成果となった一年でした。諸先輩方が築かれてきた業績や地域との連携を、さらに推し進め、今年度もさらに飛躍していく所存です。

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。泉州救命救急センター血管内治療部の井戸口と申します。昨年4月に新設された部門で、救急疾患のみならず、幅広く血管内治療を担当しております。消化管出血、動脈瘤(内臓、大動脈)、肺動静脈瘻、胃静脈瘤、透析シャント不全、閉塞性動脈硬化症など、血管内治療をお考えの患者さまがおられましたら、ご相談を含めて、是非りんくう総合医療センター血管内治療外来(毎水曜日)までご紹介ください(地域医療連携室072-46917835)。血管内治療を通じて地域医療に貢献できますように、本年も精一杯努力して参ります。



Acute Care  
Surgeryセンター長兼  
外傷外科部長  
渡部広明

### 「Acute Care Surgeryセンター」の活動

本邦初の「Acute Care Surgeryセンター」が開設してから2年半が経過しました。本センターの開設は全国から多くの反響をいただき、その結果、現在では14名のAcute Care Surgeonが勤務するセンターへと拡大いたしました(泉州救命救急センターの医師数24名)。

すでにご存じの通りAcute Care Surgeryという領域は、欧米において新たに確立した一領域であります。「重症体幹部外傷」、「救急外科」、「外科的集中治療」の3つを柱とした外科の一領域として提唱され、2009年には日本Acute Care Surgery学会(当初は研究会)が発足し、まさに発展中の一領域です。

この新しい領域であるAcute Care Surgeryをセンター化して、当泉州医療圏の該当症例の治療完結体制を確保することが本センターの使命でもあります。地域の医療機関の皆様を始め消防機関からの搬送件数は年々増加の傾向にあり、2014年の1年間で手術症例は500例(12月16日現在)となっております(泉州救命救急センターの全手術症例786例)。

Surgery担当する領域ですが、改めてご紹介したいと思えます。1つ目の「重症体幹部外傷」でありますが、これは交通外傷などの高エネルギー外傷により発生した重症外傷患者の手術的治療を主な役割としております。多くは現場からの直接搬送となりますが、場合によっては当初軽症で他の医療機関へと搬送されたものの、後に重症と判断されたケースは、当センターへご連絡いただければ引き続きの診療を行って参ります。

2つ目の「救急外科」は、いわゆる急性腹症症例から軟部組織感染症によるガス壊疽など緊急で手術対応を要する外科的疾患をその領域としております。急性腹症においては急性虫垂炎から重症敗血症を伴う腹膜炎まで幅広く対応しております。症例の軽重にかかわらず手術が必要と考えられる急性腹症などの外科症例に対しては24時間対応しておりますので是非ともご紹介いただければと思えます。

3つ目の「外科的集中治療」では重篤な外傷手術例や救急外科症例のうち集中治療管理を要するものに対して適切な全身管理を行っております。術後患者の全身状態悪化例についても可能な範囲で対応して参りますので、該当症例がありましたらご連絡をいただければ対応させていただきます。

当院の「Acute Care Surgeryセンター」は全国から注目を集めたモデルケースともいえます。当医療圏での治療完結を目指した当センターを是非ご活用いただければ幸いです。





健康管理センター長 兼  
国際診療科部長  
南谷 かおり

2020年に向けて日本は訪日外国客3千万人を目標としており、それに伴い外国人受け入れ可能な拠点病院の強化が求められています。当センターは日本人、外国人を問わずに、誰もが安心して受診できる病院を目指します。



次長兼急性期ケア推進室室長  
北村 愛子

### 新年を迎えて

医療の変化が激しいことは、この近年身にしみて理解をしていました。昨年も多くの方々に支えられ、看護実践の管理職として、また専門看護師として、患者家族様に少しでもよいケアが届けられるよう尽力し続けられたことに深く感謝いたします。

今年の抱負は、より一層『初心』を忘れず、患者ご家族さまに、よりよいケアを実践できるようにここを尽くし、看護という仕事の中で努力したいと考えています。変化する医療の中で、人を思いやる気持ちを変わらないものとして大切に、地域の健康を護る仕事に専心できるように力を注ぎたいと思います。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

副看護局長  
藤野 正子

藤野 正子

変化する社会の状況に適応し、適切な医療・質の高い看護を提供するためには、関係職種がそれぞれの専門性を最大限発揮し協働するチーム医療が必要です。私たち看護職ももう一度自分たちの役割や専門性を見直し、持てる力を最大限に発揮できるように努力し、また、そのことについて自分たちも満足できる職場づくりを目指して行きたいと考えます。



副看護局長 兼  
域医療サービスセンター副センター長  
甲斐美智子

甲斐美智子

2015年新年あけましておめでとうございます。

救命センターと統合し3年目を迎えます。毎日の緊急入院に振り回されながらも、皆さまの温かいご協力で目標の稼働率も目前に迫り感謝の気持ちでいっぱいです。

- ①稼働率の年間目標達成
- ②救急患者の受け入れをスムーズにするため病床確保
- ③スムーズな入院のための退院支援・調整

昨年同様この3点を目標に頑張りたいと思いますので今年も、ご協力よろしくおねがいします。



副看護局長 兼  
教育責任者  
鈴木千晶

鈴木千晶

### 命を考える

2014年は、「命」について色々考えさせられた年だった。家族の出来事やエボラ出血熱・スタップ細胞・災害・事件など多くの事がめまぐるしく動き、命について多くの事を考えなければならぬ環境を与えられたように思う。先日、細胞膜シートで心臓の再生医療をする事が報じられていたが、正に命を考えた医療である。今ある命をしつかり生きる事、それをしつかり支援する事が、今自分がしなければならぬ大事な事であり、今年さらさらじつくり考える年としたい。



中央手術室看護師長 兼  
中央滅菌室長  
藤原 妙子

藤原 妙子

年頭にあたりご挨拶申し上げます。昨年度は手術件数増加に御協力いただきありがとうございます。平成26年度の手術件数の推移より、今年度は約3500件前後の実績を上げられると見積もっています。夜間に延長する手術や緊急手術は例年通りそれぞれ20%前後を占めています。今年度は看護師の長時間労働の緩和及び適正な日勤人数の確保を目的に2交替制を導入することになりましたが、人材確保に難航し平成

27年度の実現に向け準備を進める所存でございます。

また、今年度は日本で初めて開催された第4回アジア周手術期看護学会(4th ASIORN)に参加し、アジアやオセアニアの手術室の現状を知り得たことで、当手術室にも反映できることを一つずつ実現したいと考えます。本年もよろしくお願ひいたします。



放射線科看護師長  
渡辺 久代

渡辺 久代

新年あけましておめでとうございませう。日々の予定検査はもちろんのこと救命センターや救急外来へ搬送される患者様たちの緊急検査、治療を安全に迅速に受け入れるために医師、コメディカルのスタッフたちと協同して頑張っています。今年もこれらの素晴らしいスタッフたちと質の高い医療を提供できるよう頑張りたいと思います。

- ♡自分をキープするポイント!
- ♡自分の役に立つことをしているという誇りは生きる自信となる
- ♡いくつになっても学ぶ姿勢をもつ
- ♡たまにはマイルールをやぶってみる
- ♡もう、年だからの思考を封印
- ♡などなど新しいことにチャレンジしてワクワクした1年にしましょう。



ICU/CCU看護師長兼  
急性期ケア推進室

川島 孝太

昨年は、ICUの看護管理のほか、院内全体の看護師教育にも関わり、改めて「看護とは何か」を考えさせられた1年となりました。私たちが良かれと思つて行うケアは、はたして患者さまの生活を基軸に提供されているか、自分の価値観のおしつけではないか。まだまだ真理には至りませんが、今年も自問自答しながら、「木を見て森を見ず」ということがないように、一つ一つのケアの質向上だけでなく、看護の大極は患者さまとその生活であることを常に忘れない、そんな看護師を育成していきたいと思ひます。本年も何卒よろしくお願ひいたします。



5階海側病棟看護師長

上野 智美



5階海側病棟看護師長

濱 裕代

病院の要になる病棟目指して一致団結  
救命センターとの統合でばたばたしていた病棟も、各諸先生方・各部署・医療スタッフの皆さんに支えられ、緊急入院・転棟・転院・退院と日々の



6階海側病棟看護師長

松本 由美

調整を無事に行うことができるようになってきました。そして病棟スタッフは、自分たちの役割を充分に理解し、患者様に最良の看護が提供できるように一致団結し日々がんばっています。4月には、救命センターとの統合3年目を迎える事になります。病院の要の病棟になれるよう今年もがんばりますので、どうぞよろしくお願ひします。

新年、明けましておめでとうござい  
います。  
昨年を振り返ってみれば、慌ただしく一年が過ぎたように思います。今年も、忙しさに追われるのではなく、「誰のために、何のために看護するのか」をスタッフ一人一人に思い起こしてほしいと思ひます。私たちがサービスタとして提供するものは、質の良い医療・看護であり、患者さんの満足がどこにあるのか・患者さんのために何が良ひのかを常に考えていかなければなりません。  
患者さんにとって『嘆き悲しむ一日よりも、明るく笑つて喜ぶ一日』を送つてもらえるように、そして、スタッフも明るく笑つて仕事が出来るような環境づくりをするために今年も頑張つていきたいと思ひます。



NICU/GCU看護師長

西出 あや子

一年があつという間に過ぎ、時間の大切さをつくづく感じております。さて、昨年は勉強の機会を沢山頂いたり、現場のスタッフ教育に携わる中で、物事に興味を持ち、努力し、継続することの重要性を強く感じました。  
『やらされている感』は、物事に受動的となり吸収力も弱いですが、いざ興味・関心が高まると、能動的となりスポンジのように吸収し、どんどん力を発揮します。また、目的が曖昧な状況では進むべき方向がブレますが、目的意識があると使命感も生まれます。

人材育成において、遊び心を忘れず目標に向かってチャレンジし、チーム力を高めていきたいと思ひます！



泉州広域母子医療センター  
6階山側病棟看護師長

福島 ひとみ

あけましておめでとうござい  
ます。  
全国的に出生率が減少している中で当院の泉州広域母子医療センターも分娩件数は減少しました。しかし、ハイリスク分娩は減少することなく、地域周産期センターとして搬送受け入れは増加傾向にあります。特に重症ハイリスクの受け入れは救命センターとの連携で増加しています。今年度も他部門との連携は勿論のこと、



7階海側病棟看護師長

南 昌子

地域の妊産婦の方々に頼られるよう、安心・安全の分娩を提供できるように頑張つてまいります。  
地域連携では、産婦人科部門もデータ収集・対応ができるように、各施設とのネットワークシステムを組み、素早い搬送ができるように今構築準備中です。  
ハイリスク・ローリスクの方々への分娩機能をとりそろえた周産期センターの施設として、今後とも入院中の食事やアメニティの改善に努め、より充実した看護の提供ができるようにスタッフ一同心がけていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

耳鼻科と整形外科の病棟の混合病棟になり1年以上が過ぎました。昨年はとまどいなながら手探りで術後管理を行つていきましたが、今では後輩指導のためにどうしていくかの教育計画も完成しつつあり、また耳鼻科や整形外科の病棟での勉強会も月1回のペースで開催されており、スタッフ皆、意欲的にたくさんの方を学ぼうと努力しています。さらに今年度も質の高い看護が提供できるよう、またチームワークのよい病棟を目指して頑張つていきたいと思ひます。



7階山側病棟看護師長  
奥出 恵子

循環器病棟看護師は、本年も新しい看護はなんだろうと探求し、少しでも看護の質が高まる看護を展開します。

治療がスムーズに受けられる看護はもちろんのこと、退院後の生活も視野に入れた看護の提供、退院支援に力を入れたいと思います。

また統合後、病院全体の病床は満床の状況が続いております。1人でも多くの患者様を受け入れることができるよう、柔軟な病棟管理を心がけ、病院経営に貢献します。

32名の信頼できる子羊たちと群れをなし、患者様の安全と病院の安泰を願い1年間努力していきます。



8階海側病棟看護師長  
射手 矢奈津子

『1年もあつと言う間に終わりました。』という感じでしたが充実した1年でもありました。病棟も多忙さが増したなか、スタッフ一丸となり、乗り切ることが出来ました。今年もさらに忙しくなるであろうと業務改善を行い、看護の質の維持または向上出来るように力を合わせてがんばって行きたいと思えます。患者様に入院から退院まで心のこもった、満足

のいく入院生活がサポートできるよ  
う今年もポジティブに頑張ってい  
ます。



8階山側病棟看護師長  
高島 麻由美

新たな年を迎えると、今年はどう  
な1年になるのか、どんな年にする  
のか考えます。昨年の春に血液内科  
の先生をお二人迎え、移植治療再計  
画が始まり、昨年11月に末梢血幹  
細胞移植が行われました。その方が、  
「最新の手法による治療はびつくり  
する程の効果を私にもたらしてくれ  
ました。本当に感謝。」と述べられ無  
事退院されました。奥の深い治療に、  
私たち看護師はまだまだ勉強不足で  
すが、先生方と力を合わせ、チーム一  
丸となってサポートをしていきます。



救命初療/手術室看護師長  
深川 敬子

幹部の方々のご配慮により、  
2014年の春、定員数を増やして  
いただき、新しい仲間を5名、迎える  
ことができました。本当にありがと  
うございました。

同時期に5名のスタッフを受けた  
のは初めてでした。今年度は教育担  
当副師長を中心に教育に力を注いで  
います。初療・手術室は、初療、手術、  
Dr. Car 出動、IVR、時間外に  
は器械の洗浄、滅菌、内視鏡洗浄など、  
広範囲な内容の業務をおこなってい  
ます。既卒者の場合、春から学習を開  
始して、遅出、オンコール、夜勤見習  
いという順番で経験し、3か月後の  
7月から夜勤に入ることが目標にな  
ります。節目で振り返りをおこない、  
経験した内容、習得できたこと、未経  
験のことなどを明らかにし、夜勤に  
入れるか判断します。夜勤は2名な  
のでダブル搬入になると搬入から入  
院まで一人に対応するためストレス  
は高くなります。彼らは経験した学  
びを同期で共有しており、未経験症  
例のイメージトレーニングなどの努  
力をしています。おかげさまで、みん  
な順調に育ってくれています。順調  
な理由は彼らのものすごい頑張りや  
努力によるものと、教育担当副師長、  
教育係が緻密な教育計画を練り、プ  
リセプターだけではなくスタッフ全  
員で教育に参加して、教育課題を理  
解していることが大きいと思います。  
そして気さくで笑いの絶えない環境  
も理由かもしれません。また修行の  
途中ですが経験豊富な5名ですので、  
患者さんやご家族が安心して治療を  
受けて頂けるために看護師が取り組  
むべきことは何かを一緒に考え、全  
員で取り組みたいと思えます。



救命ICU看護師長  
井出 由起子

新生EICUチームが動き出し3  
年目を迎えます。フルオープンさせ  
ることに悩み苦しんだ日々は過去の  
美しい思い出となりました。

救急の現場は、家族背景ひとつを  
取っても複雑で、さまざまな要素が  
絡み合います。その絡まりを根気よ  
くほどこいていくには看護師の力が必  
要です。ここから私たちのチームは、  
現状に満足することなくクオリティ  
向上に向けて、次のステージを目指  
したいと思えます。常に成長できる  
チームでありたいと思えます。



リハビリテーション科技術科長  
藤野 文崇

明けまして、おめでとうございま  
す。昨年は、土曜日のリハビリテー  
ションを部分的に開始しました。ま  
た、心臓リハビリテーションのプロ  
グラムもより患者さん個々に応じた  
リハビリテーションを実施できるよ  
うに変更しました。今年も、より充実  
したリハビリテーションを患者さん  
に提供できるよう努力していきたい  
と考えます。今年も、どうぞ宜しくお  
願い致します。





検査科技術科長

三ノ浦保彦

中央検査科は、検体(生化学、免疫、血液、一般)検査や輸血、細菌、病理、生理機能検査と守備範囲がとても広い部署です。どの部門においても専門性が高く奥が深い検査ばかりで、絶えず精度の高い良質な検査結果が求められています。

それに応えるには、検査技術の向上のみならず、老朽化した検査機器を最新の装置に入れ替える必要があります。

本年は、昨年より進めてきた検体検査部門や超音波検査部門における機器更新をすすめ、検査業務を更に効率化・迅速化させるとともに、精度の高い良質な検査結果を提供することにより、診療支援していきたいと考えています。



薬剤科部長

森朝紀文

近年「多職種によるチーム医療」がキーワードとなっており、その中で薬剤師にとっては、薬の専門家として有益で安全な薬療法を提供するための責任が重くなっています。病棟常駐を実施して、院内ではやっとな「顔の見える薬剤師」になつてきたと思いますが、今後さらに医師・看護師の役割分担の一翼を担えるように頑張っていきたいと思えます。今年には、院内だけでなく調剤薬局との連携にも力を入れて、地域医療に貢献したいと考えています。



放射線技術科技術科長

小西康彦

新春のお慶びを申し上げます。放射線技術科では、昨年に引き続き「必要な画像診断検査を必要なタイミングで実施できる体制」を継続し、「チーム医療」に貢献していきたいと考えています。

昨年は、一般撮影・病室撮影・CT検査・MR検査が増加しました。これらに対する業務効率化が求められた1年でしたが、病室撮影はFPDに更新していただき効率化の一助となりました。本年は、一般撮影、CT・MR検査部門の業務効率化に取り組みたいと考えています。



臨床工学技術科長

河野 栄治

新年明けましておめでとうございます。りんくう総合医療センター臨床工学科は計15名体制で新年を迎えました。

昨年11月から臨床工学技士の当直体制を導入し、より救急医療の充実と迅速な院内対応に力を入れてまいりました。今年も、既存の業務の充実と並行し新しい業務に取り組みで行きたいと思えます。

若手スタッフもベテランスタッフも、昨年に引き続き鋭意努力して参る所存です。今年もよろしくお願いいたします。



栄養管理科主査

住井諭美

新年あけましておめでとうございます。栄養管理科では外来・入院において高齢者人口の増加に配慮した業務を実施していきます。本年はこれまで外来で実施してきた重症化予防のための栄養指導の継続は言うまでもありませんが、特に入院栄養管理体制を強化し担当栄養士が中心となり栄養指導や栄養サポートで早期退院を支援していきたいと考えていますのでご指導とご協力の程よろしくお願いたします。



総務部長

藤原 正則

病院勤務となつてから早や9ヶ月が過ぎました。救命救急センターの統合や地域医療連携の取り組みなどにより、りんくう総合医療センターが地域の中核病院として機能している状況を日々感じながら仕事をしています。

さて、新年が明け、工事を進めてきた「りんくう教育研修棟」がオープンしました。会議室などの移転とともに、シミュレーション機器を活用した臨床研修を行うサザンウイズも運営を開始し、今後、魅力ある病院づくりの一助となるように、医師確保の面でも期待される所存です。2015年度は独法化して5年目となり、第一期中期計画の最終年度です。職員の皆さんの努力により目標



医療マネジメント課長

廣道 敦

を既に達成しているものもあります。が、病院経営の面では、引き続きもうひと押し収益を増やすことが必要です。事務職員として、医療スタッフの皆さんの下支えができるよう、また、山積する課題が少しでも解決できるように、職務に取り組み、2年目の今年を自分にとつても、飛躍の年にしたいと思えます。

新年、あけましておめでとうございます。昨年は将来の高齢化社会の課題に向けて医療制度上で大きな変化がありました。急性期・回復期・慢性期・かかりつけ医はそれぞれの治療期に合った医療の提供を求めています。また、同時に患者様にも医療の適正な受診を求めています。これまで以上に、医療機関の役割分担が明確化され、当院のような急性期病院は緊急性の高い救急医療や高度な専門医療に特化して手術などの治療を行い、急性期を脱すると回復期の病院やかかりつけ医である診療所へ紹介しなさい。つまり、一つの病院が一人の患者様を最初から最後まで診るのではなく、患者様の病状や治療の経過によりそれぞれの医療機関の機能に応じた役割を分担して治療することを求められています。そこで、地域の連携医療機関との窓口である医療マネジメント課は、他の医療機関との連携をこれまで以上に取り組み、患者様のご理解とご協力のもと地域の医療機関と共に安心して切れ目のない質の高い医療の提供を目指します。

泉州南部診療情報  
ネットワーク

# なすびんネットのご紹介

平成26年4月から、「なすびんネット」の運用をスタートしました。

公開病院である市立貝塚病院・りんくう総合医療センター・阪南市民病院に保有されている診療情報(処方内容、血液検査データ、CT・MRIなどの画像情報等)を、かかりつけ医の先生がインターネット回線を介して確認できるシステムです。かかりつけ医の先生が各公開病院と診療情報を共有することで、患者さまにも診療を受ける上で以下のような利点がございます。

- ◎重複したお薬の処方や検査を防ぐことができる
- ◎過去の病気や検査結果を正確に説明することができない場合、かかりつけ医の先生に直接確認いただける

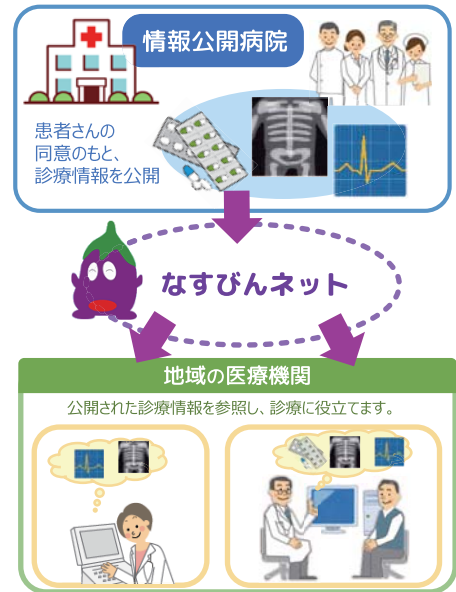
患者さまの費用負担はございません。また、セキュリティについても強固なものを利用しております。(厚生労働省が定めるガイドラインに準拠)

患者さまに「なすびんネット」に参加していただき、かかりつけ医の先生に活用していただくことで、よりスムーズな医療連携をとることができます。

ぜひ、地域みなさまに「なすびんネット」に参加していただき、泉州南部のより連携のとれた医療を実感していただきたいと思っております。

「なすびんネット」のホームページも開設しておりますので、詳しくはそちらをご覧ください。

【なすびんネットホームページ】<http://www.nasubin.net>



**かわいいお便りをいただきました**

11月20日、勤労感謝の日を前に、天使幼稚園のみなさんが、すてきな花束と「いつもありがとう」という心のこもったメッセージを届けてくださいました。ありがとうございました。

**JASTA**

**りんくうクリスマスコンサート Vol.16**

4人の女流ヴァイオリニストによる聖なるクリスマス

12月20日、第16回目となる「りんくうクリスマスコンサート」が開催されました。ヴァイオリンとピアノの美しい音色に包まれた、癒しのひとときとなりました。聴きに来ていただいた皆様、オーガナイザーの久保様はじめ関係各位の皆様、ありがとうございました。

久保 由佳子  
ヴァイオリン・企画・司会

石田 知子  
ヴァイオリン

野崎 裕香子  
ヴァイオリン

明楽 香名子  
ヴァイオリン

長岡 紫  
ピアノ

**編集後記**

編集委員(救命ICU看護師長) 井出 由起子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は自然災害やエボラ出血熱など、社会的にも課題の多い1年でした。当院としては、医療の体制を整え、力の発揮できる機会とも考えられるために、想定外の事態にも日頃よりの備えと適応力を持ったチームでありたいものです。チーム力を考えた時に、チーム全体の力が必ずしも個人の力の総和にならないという“チームロス”という言葉をご存知でしょうか。プロセスロスは複数の原因が複合的に作用して発生しますが、そのひとつに「動機づけのロス」

があります。これは全力を尽くさない行為が単純な個人の怠惰ではなく、つい安心した結果、責任性の分散が背後心理として発生した結果のようです。よりよいチームを構築するためには、チームが陥りやすい問題点についても知っておく必要があります。

新生りんくう総合医療センターとしては、多くの力がこのようなプロセスロスの状態とならないように新年に際して、みなさまと気持ちを新たにしたいと思います。

**人権標語** 「人権はみんなが持つものを守るもの」